



KOKUSAI GAKUIN EDUCATIONAL FOUNDATION

I. 最高責任者による国連グローバル・コンパクトへの継続的支持の表明

2024年11月30日

国連グローバル・コンパクト事務所御中

学校法人国際学院
理事長

大野博之

国連グローバル・コンパクト Communication on Engagement

この文書は、学校法人国際学院が国連グローバル・コンパクト（以下「UNGC」）を継続的に支持することを表明するとともに、UNGCの10原則並びに持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けての取組を実践するために、今後も最大限努力することを誓約するものです。

本学院は、2018年にUNGCに署名して以来、主に以下に掲げる2つの領域でUNGCの活動に参加してまいりました。取組内容は、添付資料のとおりです。

1. UNGC10原則を理解し、推進できる教育体制の構築・人材の育成
2. UNGCが推進するSDGsへの取組を教育課程及び課外活動に組み込み、教職員・学生生徒一丸で、SDGsを関連づけた教育プログラムを実践

本学院は、UNGCの10原則及びSDGs17目標の達成に貢献することを第V期中長期計画に示し、「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」の建学の精神に基づき、地域社会の課題解決のみならずグローバル社会に貢献しうる人材の養成を掲げています。

今後も、次代の人材養成を責務とする学校法人としての社会的責任を担い、地域社会・日本・世界、そして未来に対しグローバル・コンパクト10原則とSDGs推進に尽力することを誓い、宣言いたします。

II. 国連グローバル・コンパクトの活動を促進する本法人の取組状況

(2022年12月～2024年11月)

2023年～2024年において、本学院はSDGs推進に取り組みました。ここに、この2年間の取組状況について報告するものです

1. UNGC10原則を理解し、推進できる教育体制の構築・人材の育成

(1) 教育課程・教育プログラムにおける取組

【国際学院埼玉短期大学】

1) 卒業研究×SDGs

国際学院埼玉短期大学では、2019年4月から、「卒業研究ゼミ」「卒業研究プレゼミ」を開講いたしました。SDGsの取組を専門研究と関連づけ、2年間を通して学生がSDGsを理解し、課題解決に向けて自ら積極的に取り組み、その学修成果を発表する「卒業研究ゼミナール」「卒業研究プレゼミナール」をカリキュラムに位置付け、全学生を対象に実施いたしました。

2024年度には2年間継続した学びの強化のため、「卒業研究ゼミⅠ」「卒業研究ゼミⅡ」と名称変更・単位数変更をへて、学修成果の一層の充実を図っています。2020年4月から運用開始した、教育研究活動に必要な教材・費用を補助する運営費申請制度により、学生の経済的負担を軽減すると同時に、教育研究活動の幅を広げ、教育効果向上を促進しています。コロナ禍があげ、その学びは学外への展開も行うと同時に、2022年度はプレゼンテーション部門・ポスターセッション部門にて学修成果を発表し、後輩の学びに寄与しています。

【2022年度プレゼンテーション部門最優秀賞】

| | | |
|------|----------|---|
| 幼児保育 | 造形デザインゼミ | LGBTQの当事者が生きやすい世の中になるためのツール提案について～SDGs「5ジェンダー平等を実現しよう」～ |
| 健康栄養 | 食と環境ゼミ | 食品廃棄の発生抑制と再活用について |

【2022年度ポスターセッション部門最優秀賞】

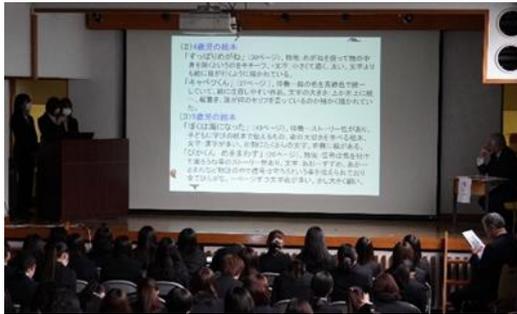
| | | |
|------|----------|--|
| 幼児保育 | 造形デザインゼミ | 「飢餓をゼロに」を実現するためのツール提案について～SDGs「2飢餓をゼロに」～ |
| 健康栄養 | 食品経済学ゼミ | SDGsとバナナ栽培 |
| | 調理教育学ゼミ | 紅赤を美味しく食べるための工夫とその伝承について |

【2022年度プレゼンテーション部門最優秀賞】

| | | |
|------|-----------|----------------|
| 幼児保育 | 健康・幼児体育ゼミ | 子どもの睡眠の現状とその影響 |
| 健康栄養 | 調理教育学ゼミ | 地域食材の調理に関する検討 |

【2022年度ポスターセッション部門最優秀賞】

| | | |
|------|----------|--|
| 幼児保育 | 造形デザインゼミ | 保育現場での子どもに向けたSDGsへの効果的なアプローチ【神経衰弱ゲームの制作】について～SDGs「10人や国の不平等をなくそう」～ |
|------|----------|--|



2) SDGs に関する授業科目開講状況

「卒業研究ゼミⅠ」、「卒業研究ゼミⅡ」、「日本文化と国際理解」、「キャリア教育Ⅰ・Ⅱ」、「地球と環境」、「埼玉学」、「海外研修」

3) 五峯祭、幼児絵画展、味彩コンテストの実施

① 五峯祭

大学祭「五峯祭」は、日頃の学修成果を発表する場であるとともに、地域の人たちとつながる、日々の教育・研究成果の発表の場です。SDGs の目標達成に向けた取り組みと同時に地域・卒業生をはじめとする多くの来場者に地元食材も利用したおいしい料理を提供したり、オペレッタの上映では子どもたちから大きな拍手をいただきました。



② 幼児絵画展

幼児絵画展は、埼玉県内の幼稚園や、保育園などに通う子どもたちを対象とした絵画展です。幼児教育における表現活動への興味・関心を高めるとともに、地域との連携を深め、地域社会における、未来を担う幼児教育の振興に貢献することを目的としています。

2023年度は近隣幼稚園・保育所等102園から908点の応募があり、また、2024年度は90園から801点の応募がありました。



③ 味彩コンテスト

味彩コンテストは、食育（食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けること）と地産地消（安全・安心な食生活のため、地元で生産されたものを地元で消費すること）を目的に開催しています。2023年度は第30回の節目であり、また、本学院創立60周年に当たることから、「学院創立60周年記念行事」として一般の部124点、高校生の部161点、合計285点の応募を得て実施し、第3回目となる2024年度においても一般の部146点、高校生の部153点、合計299点の応募を得て実施することができました。

地産地消は、地元で生産されたものを地元で消費することで、運搬等によって発生するCO₂の削減にも繋がります。このため、地産地消は、大変重要なSDGsの取組といえます。



4) オープン・エデュケーションツールの公開

本学では、持続可能な社会の実現をテーマとした本学の教育リソースを広く無償で提供し、教材や自主学修ツールとして利用してもらうことを目的に、ホームページで公開しています。

現在、ダイバシティ&インクルージョンの考えに立った幼児教育の取組に関する教材を公開しています。このオープン・エデュケーションツールは、全6回シリーズ。2022年度は第1回から第3回までを公開、2023年に第4回から第6回までを公開し完結いたしました。）

特別講座 「先生の悩みに答えます」で公開されたタイトル

- 第1回 ペースがなかなかつかめない子ども
- 第2回 指導がうまくできない子ども
- 第3回 集団活動に入りにくい子ども
- 第4回 ほめて育てるコツ
- 第5回 見通しはすごい力
- 第6回 保護者との連携

5) 授業科目「海外研修」の取組

本学では、国際社会の中で信頼された「人」となるために、学生が海外を訪問し、現地における実習を中心に学修していく、「海外研修」という授業科目を開設しています。2024年度は、高大連携オーストラリア海外研修として短期大学と高等学校が連携し、オーストラリア・ゴールドコーストにおける研修を実施いたしました。また、海外研修の授業科目では、新しい時代を生きるために必要な教養や人格形成の基盤となる能力の修得を図るため、日本文化や歴史を学び、また防災・減災を学ぶための機会として「仙台研修」を実施いたしました。この他、国際港湾都市である横浜市を研修場所とし、異文化や価値観の異なる人々を理解し、共生していこうとする姿勢を学ぶとともに、国際社会の一員としての意識を涵養する研修も実施いたしました。

(i) 高大連携オーストラリア海外研修

- ①期 日：令和6年6月12日～6月17日
- ②場 所：オーストラリア ゴールドコースト
- ③指導教員：短期大学 教育研究所 大野満奈教授・高等学校 下田理佳教諭・伊藤堯教諭
- ④目 的：国際時代に対応できる語学力とマナーを身に付け、国際理解を深めるため、カラニン野生動物保護地区を訪問し、オーストラリア固有の動物と触れ合い、アボリジナル・ピープルと交流することにより、オーストラリアへの理解を深める。ホストファミリーと日々の生活の中で交流をすることで、生活文化や異文化を学び、語学コミュニケーション能力を高める。
- ⑤内 容：マウントクーサ、QLD博物館、カラニン野生動物保護地区、アボリジナル・ピープルとの交流、ホームステイ
- ⑥SDGs 目標：17
- ⑦参加者：短期大学 健康栄養学科2年生12名、高等学校 3学年9名

(ii) 仙台研修

- ①期 日：令和6年5月29日～5月31日
- ②場 所：仙台市、山形県立石寺
- ③指導教員：短期大学 古木竜太准教授・短期大学 教育研究所：大野琴絵講師
- ④目 的：新しい時代を生きるために必要な教養や人格形成の基盤となる能力の修得を図る

ため、日本文化や歴史を学び、また防災・減災を学ぶための機会とする。

⑤内 容：

- ・地場産業を学ぶ：仙台市内において、特産の「笹かまぼこ作り」の体験学習
- ・日本文化や歴史を学ぶ：仙台市七夕ミュージアム、山形県立石寺、宮城県松島湾
- ・震災学習：東日本大震災を語り継ぐ「中野ふるさと YAMA 学校」の皆様の話を通し、自然災害の脅威、命の大切さや家族との繋がりを再認識する。

(iii) 横浜研修

明治時代以降、日本における、欧米や中国など諸外国との国際交流窓口の一つとなってきた、国際港湾都市である横浜市を研修場所とし、異文化や価値観の異なる人々を理解し、共生していこうとする姿勢を学ぶとともに、国際社会の一員としての意識を涵養しました。

(iv) 海外で活躍する卒業生との意見交換

JICA の海外青年協力隊としてキルギス共和国に派遣され、調理師養成職業訓練校で日本料理を指導した経験を持つ本学卒業生を令和 6 年 11 月 4 日、「日本文化と国際理解」で外部講師として招聘し、異文化交流を実践してきた先輩の経験談を直接聞くことができる授業を展開しました。

【国際学院中学校高等学校】

1) 卒業研究発表会

本校の特色ある取り組みの 1 つに、「主体的に学んで発表する」探究学習が挙げられます。そのハイライトとなるのが高校 3 年の卒業間際に行う卒業研究発表会です。生徒たちは 2 年次から取り組み、研究テーマは SDGs の目標いずれかに絡めています。高校生活の集大成として、多くの人を前に自信を持ってプレゼンテーションを行いました。

2023 年度 高校全日制課程 代表 7 タイトル（於：上尾市文化センター）

- ・子供の成長における良い環境とは
 - ・ブラックバスは悪者なのか？
 - ・安いステーキ肉を理論的に美味しくするには
 - ・日本の抱える言語問題とは～来日外国人のための対応～
 - ・何故戦争がなくなるのか～戦争に関する様々な思想と目的～
 - ・全世界で食べられる未来の食材には何があるか
 - ・LGBTQ 問題から考える人権とマイノリティ
- ◎最優秀賞 「全世界で食べられる未来の食材には何があるか」

2023 年度 高校通信制課程 第 3 学年生徒 13 名（（於：大宮学習センター）

- ◎最優秀賞 「脳と記憶 ～適切な方法で勉強するには～」



2) 五峯祭

“五峯祭”（いつみねさい）とは、本校の文化祭の名称で、建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」の5つの言葉を山の峯に例えているところに由来します。毎年9月に開催している五峯祭は、生徒たち日頃の学習成果を披露する場となっており、また、地域の人たちと繋がり、さらに、SDGsを学ぶ場となっています。2023年、2024年も来場型の五峯祭を実施しました。



フードコート



LIVE（軽音楽）



恒例のドミノ倒し配信

2024年開催 来場者 1,361名（2日間）

テーマ 「気炎万丈」

最優秀賞 1-A ペットボトルキャップモザイクアート

2023年開催 来場者 1,380名（2日間）

テーマ 「笑顔輝け！青春フェスティバル！」

最優秀賞 オレのごはん オレのごはん（食物調理コース）

3) 国際交流を通じた国際理解教育の推進

・オンライン交流

新莊高級中學（台湾）の生徒達と本校全日制課程の中高生による、オンライン国際交流会を、2022年度から行っています。2023年度は、4月にポストカードの交換を通じた国際交流を実施しました。高校2年生及び3年生の106名の生徒が参加しました。

また、6月には、“Culture Box”という形での交流も行いました。“Culture Box”とは、お互いの文化を箱に詰めて交換するというもので、今年はインスタントヌードルをテーマに、台湾の生徒から届いたインスタントヌードルの試食会を開催しました。高等学校1年生から

3年生までの10名の生徒と中学3年生が参加しました。生徒たちは、見たことの無いパッケージデザイン、嗅いだことの無い香辛料の香りに台湾の生活や文化を感じていました。本校からも日本のインスタントヌードルを送り交流を深めました。



・オランダ Alfrink College との交流

2023年11月22日から11月30日まで、オランダ Alfrink College の生徒と教員の13名が来日来校し、本校の敦照殿に宿泊しながら、全日制生徒、通信制生徒と交流を図りました。

本校にとってもコロナ禍でしばらく見送ってきた海外校との直接交流となりました。

全日制生徒との交流ではホームステイや、生徒とバディを組み一緒に授業を受けるなど行いました。

通信制での交流では生徒が琴の演奏を披露し、その後琴の弾き方を教え一緒に演奏するなど、充実した交流をすることができました。



4) ユネスコスクール活動の推進

本校では2010年にユネスコスクールに加盟して依頼、世界遺産に関する講演会や様々な海外との交流など、積極的にESD（持続発展教育）に取り組んでいます。

ユネスコスクールでは、

- ・地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ・人権、民主主義の理解と促進
- ・異文化理解
- ・環境教育

の4つをテーマとして、ESD（持続発展教育）に取り組んでいます。

○2023 年度埼玉県障害者就労施設支援事業「第 24 回 彩の国セルフまつり」参加

- ・実施期日：2023 年 5 月 13 日
- ・実施場所：国際学院中学校高等学校小講堂
- ・内 容：埼玉県内の障害者 32 施設参加する県内最大級のイベントで、障害者施設で働く障害者の方々が、心を込めて作ったパンやお菓子、思いを込めて作った雑貨などを展示・販売しました。本校も、軽音楽演奏・書道部による生演奏による書道パフォーマンス・ボランティア活動を実施しました。

○2024 年度埼玉県障害者就労施設支援事業「第 25 回 彩の国セルフまつり」参加

- ・実施期日：2024 年 6 月 1 日
- ・実施場所：さいたま市鐘塚公園
- ・内 容：埼玉県内の障害者 27 施設が参加。障害者施設で働く障害者の方々が、心を込めて作ったパンやお菓子、思いを込めて作った雑貨などを展示・販売しました。本校も、2023 年に引き続き、軽音楽部による生演奏に合わせて書道部がパフォーマンスを行うボランティア活動を実施しました。



第 25 回 彩の国セルフまつり(埼玉県ホームページから)

5) 企業との連携

○UNIQLO

“届けよう、服のチカラプロジェクト”
ユニクロに出張講義を行っていただき、
発展途上国の実情を学習。実際に五峯祭
を中心に古着回収活動を行い、毎年多く
の子ども服を寄贈しています。



○ユニクロ服のカプロジェクト 講演会

- ・期 日：2024年6月28日
- ・場 所：国際学院中学校高等学校 2号館会議室
- ・内 容：難民を救う手段の一つとして古着（子ども服）のリサイクルの重要性について講義を受け、プロジェクトの概要について学びました。

○Unilever “UMILE（ユーマイル）プロジェクト”

「サステナビリティを暮らしの“あたりまえ”に」というパーパスのもと、グローバル企業であるUnileverと連携し、プラスチックの削減や資源循環を目指す共同プロジェクトを実施しています。

特にシャンプー容器等のリサイクルにより、本校生徒会が企画した独自リサイクル品を配布しています。



○川上産業株式会社 “SDGs 講演会”

“プチプチ®”とよばれる気泡タイプの緩衝材。その国内シェア NO.1 の川上産業様とコラボレーション。校内に“プチプチ®”回収BOXを設置し、積極的に回収中。

○特定非営利活動法人 SHARE “ESD 講演会”

カンボジア・東ティモール・日本で、“いのちを守る人を育てる”保健医療支援活動を行っている NGO SHARE。講演を聞き、国境を越えて、手を取り合うことの重要性を学習。

6) 緑の募金活動

- ・期 日：2024年4月25日
- ・場 所：国際学院中学校高等学校伊奈キャンパス
- ・内 容：身近な地域や国内外の「森づくり・人づくり」活動の活性化を目的とし、生徒会を中心に募金活動を、全校生徒、全教職員に対して実施しました。



7) 台湾東部沖地震募金活動

- ・期 日：2024年5月9日

- ・場 所：国際学院中学校高等学校伊奈キャンパス他
- ・内 容：4月に発生した台湾東部沖を震源とする地震により、台湾各地が甚大な被害に見舞われたことから、被災地の日も早い復興を願い、生徒会を中心に、朝の登校時間に、全校生徒、全教職員に対して実施しました。

8) 外務省高校講座

- ・期 日：2024年6月12日
- ・場 所：国際学院中学校高等学校 小講堂
- ・テーマ：外務省の仕事と異文化理解域
- ・内 容：外務省が全国の高等学校に外務省職員を派遣し、国際理解や外交官の職務について講座を行っており、外交官の仕事を通じて国際理解を深めることを目的に実施しました。

9) 海外研修

①オーストラリア研修（通信制単独で実施）

- ・期 日：令和5年10月17日～10月22日
- ・場 所：オーストラリア ゴールドコースト
- ・参加者：通信制課程生徒希望者9名
- ・目 的：次年度の高大連携研修に先駆け通信制単独で実施しました。異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高めることを目標としています。
- ・内 容：ホームステイ、アボリジニカルチャーセンター、オーストラリア動物園



②オーストラリア研修（高大連携研修として実施）

- ・期 日：令和6年6月12日～6月17日
- ・場 所：オーストラリア ゴールドコースト
- ・参加者：高等学校 3学年9名（短期大学生 12名とともに研修）
- ・目 的：国際時代に対応できる語学力とマナーを身に着け、国際理解を深めるため、カランビン野生動物保護地区を訪問し、オーストラリア固有の動物と触れ合い、アボリジナル・ピープルと交流することにより、オーストラリアへの理解を深める。ホストファミリーと日々の生活の中で交流をすることで、生活文化や異文化を学び、語学コミュニケーション能力を高める。
- ・内 容：マウントクーサ、QLD博物館、カランビン野生動物保護地区、アボリジナ

ル・ピープルとの交流、ホームステイ

③オーストラリア研修（全日制単独実施）

- ・期 日：令和6年9月25日～9月30日
- ・場 所：オーストラリア ゴールドコースト
- ・参加者：高等学校 2学年 67名
- ・目 的：ローンパインコアラサンクチュアリーを訪問し、オーストラリア固有の動物との触れ合いや専門家からの講義を通してオーストラリアへの理解、特に自然保護に対する姿勢を学ぶ。また、ホームステイではホストファミリーとの日々の生活を通して生活習慣の違いや異文化に触れ、語学コミュニケーション能力を高める。
- ・内 容：マウントクーサ、ローンパインコアラサンクチュアリー、ホームステイ



10) マレーシア研修（中高合同研修として実施）

- ・期 日：令和6年11月10日～11月13日
- ・場 所：マレーシア クアラルンプール プトラジャヤ
- ・参加者：高等学校 2学年2名 中学校3学年14名
- ・目 的：語学力を向上させ、国際的なマナーを身に着け、国際理解を深めることを目的とする。旅程中に王立アラムシャー中等学校を訪問し、現地生徒との相互学習等を通して、異文化を体験的に学び、語学コミュニケーション能力を高める取り組みを行う。
- ・内 容：王立アラムシャー中等学校への訪問と生徒間交流、観光（王宮・ツインタワー・モスク等）

11) 中国江蘇省南通思徳蕪外国語学校（なんつうしとくふうがいこくごがっこう）との交流会

- ・日 時：2024年7月16日（火）9:30～12:20
- ・場 所：高等学校キャンパス内小講堂他
- ・参加者：高等学校 1学年18名 2学年7名 3学年19名
- ・目 的：日本の大学への進学を希望する同校生徒と、日本文化を紹介するプログラムを通じて語学コミュニケーション能力を高め、国際理解を深める。
- ・内 容：ソーラン節披露、敦照殿での日本文化体験、生徒ホールでの昼食体験

2. UNGC が推進する SDG s への取組を教育課程及び課外活動に取り組み、教職員・学生生徒一丸となって、SDG s を関連付けた教育プログラムを実践

(1) 学生生徒の自主的・主体的取組

【国際学院埼玉短期大学】

1) 学生政策提案フォーラム

本学が所在する「さいたま市」が、開催する「学生政策提案フォーラム」に、2023 年、2024 年と続けて本学の学生グループが主体的に参加しました。SDG s に関する、学生の行動変容の証と認められる取組です。

○2023 年度 学生政策提案フォーラム開催日程・参加ゼミ

日 時：2023 年 11 月 26 日（日） 13 時 30 分から 17 時 30 分まで

会 場：武蔵浦和コミュニティセンター 多目的ホール（サウスピア 9 階）

テーマ：誰一人取り残さない持続可能な地域社会

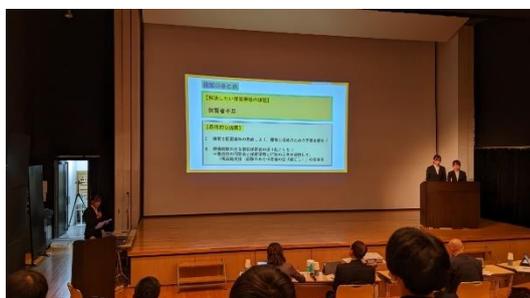
<参加学生グループ>

- ・教育学ゼミ（保育学生の目から見た保育の現場の問題点 参加学生 3 名）

指導教員 中村敏男

- ・鈴木ゼミ（がんと共に生きよう 参加学生 2 名）

指導教員 鈴木玉枝



○2024 年度 学生政策提案フォーラム開催日程・参加ゼミ

日 時：2024 年 11 月 24 日（日） 13 時 00 分から 18 時 00 分まで

会 場：RaiBoC Hall（さいたま市民会館おおみや）7 階 小ホール

目 的：テーマ：誰もが自分らしく暮らせる地域共生社会の実現

さいたま市は、市内に居住する外国人と日本人がお互いの文化や習慣等を学び合う機会を充実することや、障害のあるなしにかかわらず、誰もが権利の主体として共に暮らせる地域づくりを進めるなど、お互いが持つ文化や価値観を尊重し、誰もが自分らしく暮らせるまちを目指している。また、ライフスタイルの変化や住民の頻繁な流入、単独世帯の増加や夫婦のみの世帯の増加による家族や地域の支え合い意識の希薄化など、まちづくりの基盤となる「地域力」の低下に対して、子どもから高齢者まで多世代の交流を促進するとともに、学校や歴史文化資源等を活用した地域コミュニティの活性化を図り、地域のきずななどのソーシ

ャルキャピタルを高めることにより、人と人が触れ合い、支え合う地域社会の形成を目指す必要がある。

<参加学生グループ>

① 造形表現ゼミ（政策提言：クリエイティブ・リサイクルセンターの開設）

指導教員：佐藤牧子講師 参加学生：6名

<発表テーマ>

クリエイティブ・リサイクルセンター [Creative Recycle Center]

～工場や企業から出される廃材・リサイクル素材に着目し、それらの素材を造形素材として地域の人や施設に提供する<創造の拠点>つくる喜び、新たな価値の創出を行政レベルで実現～

② 臨床栄養学ゼミ（政策提言：高齢者の健康寿命の延伸）

指導教員：鈴木玉枝教授 参加学生：3名

<発表テーマ>

「食を愉しむ」ことでより豊かに

～健康寿命の延伸に向けた「食」選択力の向上、および食環境の整備について～



リサイクル素材をまとってのプレゼン



審査委員を前に政策提言

2) 学友会主体的活動

エコキャップ運動やユニセフ（国連児童基金）への使用済み切手寄付など、SDGs と関連する取組を継続的に実施しています。学友会の主体的活動はすべて学友会定時総会にて報告するとともに、「学友会広報 RING」に掲載し、全学共有も図っています。

学友会主体的活動（2022年12月～2024年11月）

① エコキャップ運動：NPO 法人キャップの貯金箱推進ネットワークへ提供

1 回目：重量 15.36 kg、個数 6,604 個、寄付金 153 円、ポリオワクチン 7.65 人分

2 回目：重量 14.14 kg、個数 6,080 個、寄付金 141 円、ポリオワクチン 7.05 人分

② トルコ・シリア地震救援金（日本赤十字社）寄付金合計：20,634 円

③ 能登半島地震災害義援金（日本赤十字社）

1 回目：41,387 円 2 回目：30,557 円

④ タウンミーティング参加 学友会副会長・特別委員がさいたま市長と意見交換会に参加

- ⑤ いじめ防止シンポジウム参加（さいたま市教育委員会主催）
- ⑥ ユニセフ（開発途上国の子どもたちを守る活動）使用済切手提供
1回目：172g 2回目：309g
- ⑦ 埼玉県ボッチャ交流大会出場（障がい者スポーツの理解・交流）



3) チャリボン募金の取り組み

大宮キャンパスにおいて不要になった本やDVDを株式会社バリューブックスが買取り、査定相当額を日本ユネスコ協会連盟に寄付する仕組みを活用。その寄付金を通じて日本ユネスコ協会連盟が実施する教育・文化支援活動に役立てます。

4) 不用品のリサイクル・有効活用への取組

大宮キャンパスにおいて学習機と椅子をリニューアルしたことに伴い、廃棄することとなった学習機の天板を書架や花壇等にアップサイクルすることに取り組んでいます。また、廃材等を利用したおもちゃ制作など、学生と地域の子ども達などが自由な発想で創作活動を行える場を設け、これらの取り組みを発表・展示するなど、地域の活動へと広がっていきます。

5) 農業体験

学生の自主的な活動として、地域の農業者の協力を得て、さいたま市の伝統野菜であるサツマイモの“紅赤”を、学生が育て、収穫し、加工・製品化するという取組を続けています。学生たちは、農作業の体験を通じ、自然環境を持続させることの重要性を学び、また、収穫し製品化することで、地産地消が持続可能な社会の実現に果たす役割を学んでいます。製品化した「紅ピヨザクザクパウンド」は五峯祭（大学祭）での販売をはじめ、さいたま市農業祭へも出品し、広く地域社会に“紅赤”を紹介しています。



【国際学院中学校高等学校】

1) 緑の募金活動

- ・期 日：2024年4月25日
- ・場 所：国際学院中学校高等学校伊奈キャンパス
- ・内 容：身近な地域や国内外の「森づくり・人づくり」活動の活性化を目的とし、生徒会を中心に募金活動を、全校生徒、全教職員に対して実施しました。

2) 台湾東部沖地震募金活動

- ・期 日：2024年5月9日
- ・場 所：国際学院中学校高等学校伊奈キャンパス他
- ・内 容：4月に発生した台湾東部沖を震源とする地震により、台湾各地が甚大な被害に見舞われたことから、被災地の一日も早い復興を願い、生徒会を中心に、朝の登校時間に、全校生徒、全教職員に対して実施しました。



(2) SDG s 推進に向けた全学（校）的取組

【国際学院埼玉短期大学】

1) 地産地消推進に係る協定の締結

2024年1月26日、国際学院埼玉短期大学とさいたま市及びパレスエンタープライズは、



3 者が連携することで食や農業に関する理解を深め、地域の食文化の継承に繋がる食育の推進、消費者と生産者の顔が見える関係づくりを通じた地域の活性化に資することを目的として、連携協定を結びました。

<連携の主な取組>

① さいたま市発祥のサツマイモ「紅赤」に係る取組

本学学生がレシピを考案し、パレスホテル大宮がレシピをもとに加工・商品提供、それをさいたま市が広く情報発信します。



② 「さいたまスイーツ collection」に出店

期 日：2024年6月29日、30日

会 場：さいたまスーパーアリーナ

内 容：驚きの甘さを持つさいたま市産のミニトマト「プチぷよ」を使用したレシピを本学学生が考案し、パレスホテル大宮のパティシエがアレンジしておいしいスイーツが誕生し、さいたまスイーツ collectionにおいて初めて販売いたしました。

出典：さいたま市ホームページ



プチぷよスムージー



プチぷよ3食マフィン

2) 「給水スポット設置」の取組

2022年9月からさいたま市等と産学官連携プロジェクトの提携を行い、世界的課題であるマイクロプラスチック問題の解決に寄与することを目的に、学生にマイボトルを無償配付するとともに、学内にウォーターサーバーを設置し、ペットボトルの削減を図る実証試験に参画しました。この実証試験実施の結果、ペットボトルの削減効果が確認されたことから、

引き続き、2023 年度から給水スポットを本格導入することとし、増設分も含め、4 か所に 4 台を設置しました。

3) 防災減災意識向上活動

埼玉県から賞味期限が近付いている災害救助用備蓄食料アルファ米・缶入りパンの譲渡を受け、美味しく食べて備蓄食料を身近に、をコンセプトに本学独自の防災強化月間に学生食堂にてメニューに追加し、調理の工夫について紹介した。(写真は缶入りパンのアレンジ)



3) ハラスメント

ハラスメントとは、弱い立場の相手に嫌がらせをする行為ことであり、重大な人権侵害です。本学院では、見て見ぬ振りも絶対に許さないという強い姿勢でハラスメントの無い教育環境・職場環境を実現するため、2024 年 3 月には非常勤を含む全教職員を対象とする研修会を実施するなど教職員に対する周知・啓発を行いました。これからも、本学院で学ぶ学生生徒や教職員の人権を守っていきます

4) 公的研究資金等不正防止に向けた取組の推進

本学では、公的研究資金等不正防止に向けた取組を一層強化するため、基本方針の改正を行うとともに、2023 年 6 月に、全教職員を対象とする研修会を実施し、最高管理者（学長）のリーダーシップのもと、研究費の不正防止に向けた取組みを強化しました。

5) 国際学院の未来を語る会

- ・期 日：2023 年 12 月 19 日
- ・場 所：パレスホテル大宮

本学院では、短期大学及び中学校高等学校の学生生徒や保護者、教職員等を対象に、毎年 12 月に学院創立記念行事実施し、本学院の建学の精神や教育方針等の理解を深めているとともに、式典に引き続き、学院創立記念式典にふさわしい講演や講演を実施しています。



2023 年は、学院創立 60 周年の記念すべき年であったことから、「国際学院の未来を語る会」として、学院創立 60 周年の節目に、創立者大野誠先生並びに大野敦子先生のお二人が築かれた 60 年を振り返り、今後のさらなる国際学院発展の機運を高め、また、国連グ

ローバル・コンパクト活動の一層の促進を図るための機会としました。

【国際学院中学校高等学校】

1) 教育環境改善とエコキャンパスの推進

伊奈キャンパスでは、本館の全クラスにおけるプロジェクター配置に向け、黒板のホワイトボード化更新とプロジェクター設置を進めています。2023年には2階と5階フロアを、2024年には3階フロアを全面改修しました。



2) ハラスメント

本校では、ハラスメントに関する改正法が施行されたことから、教職員に対する周知・啓発や関係する学内規程の整備、相談窓口の整理などを行いました。これからも、本校で学ぶ生徒や教職員の人権を守っていきます。

3) DXハイスクールの推進

文部科学省の「令和6年度高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」に採択をされました。高校段階からこれからの社会に求められるデジタル人材の育成に向けて取り組みを始めました。2024年度の五峯祭(文化祭)では、レーザーカッターを使い、来場者のネームプレートを作成してプレゼントしました。このよう活動を通して、生徒がデジタルモノ作りを体験するだけでなく、地域の方々にその成果を還元することができました。



4) 生徒が中心となった校則改正

本校は、生徒が主体的に参画し校則改正を行なうため、生徒代表10人、教員3人をつく

る校則改正検討委員会を設置し、毎週 1 回、教員と話し合い、服装や髪形、校内におけるスマートフォンの利用など、自分たちの提案を盛り込んだ校則をつくりました。改正後の校則は、2025 年 4 月から実施する予定です。

5) さいたま市大崎公園「マルシェ」ボランティア活動

さいたま市大崎公園で毎月開催される、さいたま市主催「マルシェ」において、さいたま市の野菜を使った手作りのお菓子を販売しています。販売時に高大連携の取組として、短期大学の学生と通信制課程の生徒がお手伝いのボランティア活動を行っています。また、売上金の一部をユニセフに募金し、2023 年 12 月に日本ユニセフ協会より「感謝状」を、2024 年 1 月には同じく日本ユニセフ協会より「We Support UNICEF 賞」を受賞しました。



6) サイエンスキャラバンボランティア

リコージャパンが主催とするサイエンスキャンプが、さいたま市青少年宇宙科学館にて 2024 年 1 月 27 日(土)、28 日(日)の二日間開催され、通信制課程の生徒 3 名がボランティアとして参加をしました。「360 度カメラとあそぼう！」のテーマの中、子どもたちへ、360 度カメラの説明・缶バッジの作成などを手伝わせていただき、貴重な体験となりました。詳細は下記 URL となります。

https://sciencecaravan.ricoh/pages/38/detail=1/b_id=253/r_id=166

Ⅲ. 成果の測定

1. UNGC10 原則を理解し、推進できる教育体制の構築・人材の育成

【国際学院埼玉短期大学】

G C 10 原則と SDG s の実現を目指した授業科目における取組

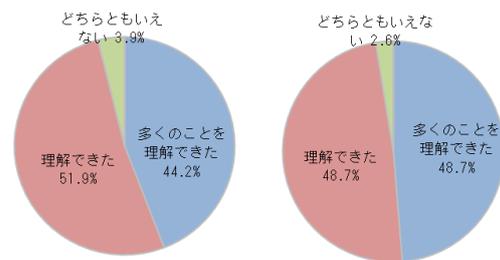
本学教育課程のうち、G C 10 原則と SDG s の実現を目指した授業科目「卒業研究ゼミ I・II」では、SDG s に専門研究を関連付けた 2 年間の研究成果を卒業研究発表会にて発表し、学びの深化を図ると同時に卒業時にディプロマ・サプリメントを発行しています。

卒業研究発表会時の学生調査において、2 年間の卒業研究により 96.6%の学生が SDG s への理解が深まったと回答しています。

ディプロマ・サプリメント



SDG s の理解度 (幼児保育・健康栄養学科)



【国際学院中学校高等学校】

2024 年 4 月と 6 月に実施した、台湾の新莊高級中學の生徒たちと本校の中高生による、オンライン国際交流会は、海外の高校生たちとリアルタイムで交流できる大変、貴重な機会となりました。

交流会のメインテーマは、「ポストカードの交換」斗「インスタントヌードル」でした。双方の生徒たちが、ポストカードの交換を通じた国際交流を図り、また、インスタントヌードルのパッケージデザインの違いを発見し、試食や双方の生徒間で様々な意見交換を通じて両国の生活や文化の違いを肌で感じ、これからの行動を深く考えていくという大きなきっかけになりました。

本校はユネスコスクールに加盟しており、ESD (Education for Sustainable Development : 持続発展教育) にも力を入れています。今後も国際的な取り組みを推進していきます。

○2022 年 → 2023 年 における、アンケート結果から確認できる生徒の行動変容

①SDG s に関する理解を深めることができた生徒の割合 : 95.9% → 90.9%

②SDG s 17 目標達成のために行動できた生徒の割合 : 69.6% → 63.6%

※SDG s に係る行動変容の割合が下がっているのは、入学時における生徒の SDG s に関する

理解が深まってきていることによるものであると考えられる。

○SDG s 目標達成のために行動に移すことができた具体的取組

- ・ゴミの分別や減量の取組
- ・フードロスへの取組
- ・卒業研究などの取組
- ・リサイクル活動
- ・家庭内での取組
- ・文化祭での取組
- ・プラスチックの使用量削減
- ・コンタクトレンズのケース回収
- ・部活動
- ・emmywash の導入

2. 教育課程及び課外活動に組み込んだ SDG s に関連づけた教育プログラムの実践と、学生生徒の自主的・主体的取組を目的とする SDG s への取組

【国際学院埼玉短期大学】

1) 学生政策提案フォーラム

さいたま市が主催し、第 13 回目の開催となる 2024 年度学生政策提案フォーラムにおいて、本学の政策提案が「最優秀賞」を受賞いたしました。

「学生政策提案フォーラム」は、学生の柔軟な発想をさいたま市行政の取組のヒントとして活用することとしており、本学の学生グループは、2023 年、2024 年と続けて自主的・主体的に参加しました。SDG s に関する学生の行動変容の具体的な成果となりました。

<最優秀賞を受賞した学生グループ>

- ① 造形表現ゼミ（指導教員：佐藤牧子講師 参加学生：6 名）
- ② 政策提言：クリエイティブ・リサイクルセンターの開設
- ③ 提言内容

- ・工場や企業から出される廃材・リサイクル素材に着目し、それらの素材を造形素材として地域の人や施設に提供する<創造の拠点>つくる喜び、新たな価値の創出を行政レベルで実現するクリエイティブ・リサイクルセンターの開設。

2) 学友会主体的活動（2022 年 12 月～2024 年 11 月）

エコキャップ運動やユニセフ（国連児童基金）への使用済み切手寄付など、SDGs と関連する取組を継続的に実施しています。学友会の主体的活動はすべて学友会定時総会にて報告するとともに、「学友会広報 RING」に掲載し、全学共有も図っています。

- ① キャップ運動：NPO 法人キャップの貯金箱推進ネットワークへ提供
 - 1 回目：重量 15.36 kg、個数 6,604 個、寄付金 153 円、ポリオワクチン 7.65 人分
 - 2 回目：重量 14.14 kg、個数 6,080 個、寄付金 141 円、ポリオワクチン 7.05 人分
- ② トルコ・シリア地震救援金（日本赤十字社）
寄付金合計：20,634 円
- ③ 能登半島地震災害義援金（日本赤十字社）
1 回目：41,387 円 2 回目：30,557 円

- ④ タウンミーティング参加 学友会副会長・特別委員がさいたま市長と意見交換会に参加
- ⑤ いじめ防止シンポジウム参加（さいたま市教育委員会主催）
- ⑥ ユニセフ（開発途上国の子どもたちを守る活動）使用済切手提供
1回目：172g 2回目：309g
- ⑦ 埼玉県ポッチャ交流大会出場（障がい者スポーツの理解・交流）

【国際学院中学校高等学校】

1) 緑の募金活動

- ・期 日：2024年4月25日
- ・場 所：国際学院中学校高等学校伊奈キャンパス
- ・内 容：身近な地域や国内外の「森づくり・人づくり」活動の活性化を目的とし、生徒会を中心に募金活動を、全校生徒、全教職員に対して実施しました。

2) 台湾東部沖地震募金活動

- ・期 日：2024年5月9日
- ・場 所：国際学院中学校高等学校伊奈キャンパス他
- ・内 容：4月に発生した台湾東部沖を震源とする地震により、台湾各地が甚大な被害に見舞われたことから、被災地の一日も早い復興を願い、生徒会を中心に、朝の登校時間に、全校生徒、全教職員に対して実施しました。